

伝送システム仕様書

<第6次>

平成18年4月

<<目次>>

1. データ交換方式概要	1
1. 1 システムの目的	1
1. 2 対象となる交換情報	2
1. 3 システムの対象範囲	2
2. 伝送プロトコル	4
2. 1 ネットワークプロトコルと接続方法	4
2. 2 データ転送プロトコル	4
3. 認証の考え方	6
3. 1 接続時の認証	6
3. 2 データの保護	6
3. 3 運用面	7
3. 3. 1 ID, メールアドレスの割り振り	7
3. 3. 2 パスワードの変更	9
3. 4 都道府県/保険者/福祉事務所/事業所へのセキュリティ要件	9
4. 電文のシーケンスおよびクライアントアプリケーションの仕様	10
4. 1 電文の種類	10
4. 2 電文のシーケンス	11
4. 2. 1 データ送信	11
4. 2. 2 データ取り消し	11
4. 2. 3 審査支払等システムからの出力	12
4. 2. 4 サービス情報	12
4. 2. 5 下り連絡情報	12
4. 2. 6 上り連絡情報	12
4. 3 電文の処理タイミング	13
4. 4 電文の2重送信に関して	13
4. 5 クライアント側における電文の受け取り場所	13
5. クライアント側でのデータ作成方法	14
5. 1 電文の形式	14
5. 2 インタフェース部分	14
5. 2. 1 クライアント側電文毎のインタフェース部分の規定	15
5. 3 データ部分	16
5. 4 クライアント側からの電文作成時の注意事項	17
6. クライアント側での電文の受け取り方法	19
6. 1 電文の形式	19

6. 2	インタフェース部分.....	20
6. 2. 1	サーバ側電文毎のインタフェース部分の規定.....	20
6. 3	データ部分.....	26
6. 4	各電文の送り先.....	26
6. 5	サーバ側からの電文作成時の詳細仕様.....	26
7.	ファイルのダウンロードシーケンスとクライアント側アプリケーション.....	27
7. 1	ファイルのダウンロード対象物.....	27
7. 2	ダウンロードシーケンス.....	27
7. 3	サービス通知メール.....	28
7. 3. 1	電文の形式.....	28
7. 3. 2	インタフェース部分.....	28
7. 3. 3	インタフェース部分の規定.....	28
7. 4	クライアント側アプリケーション.....	29
8.	拡張機能におけるサーバからの電文.....	30
8. 1	拡張内容.....	30
8. 2	バージョン情報.....	31
8. 2. 1	電文の形式.....	31
8. 2. 2	インタフェース部分の規定.....	31
8. 3	下り連絡電文.....	32
8. 3. 1	連絡シーケンス.....	32
8. 3. 2	電文の形式.....	32
8. 3. 3	インタフェース部分.....	33
8. 3. 4	インタフェース部分の規定.....	33
8. 3. 5	連絡内容部分.....	33
8. 3. 6	連絡内容部分（メール本文）の規定.....	33
8. 3. 7	連絡内容部分（添付ファイル）の規定.....	34
8. 3. 8	下り連絡電文作成時の詳細仕様.....	34
8. 4	到達確認情報.....	34
8. 4. 1	電文の形式.....	34
8. 4. 2	インタフェース部分の規定.....	34
8. 5	受付点検情報.....	36
8. 5. 1	電文の形式.....	36
8. 5. 2	拡張情報及び添付ファイル設定条件.....	37
8. 5. 3	インタフェース部分の規定.....	38
8. 5. 4	データ部分（添付形式）の規定.....	40
8. 6	取り消し情報.....	41

8. 6. 1	電文の形式	41
8. 6. 2	インタフェース部分の規定	41
8. 7	テスト環境インタフェース	43
8. 7. 1	クライアントからの送信電文インタフェース	43
8. 7. 2	サーバからの送信電文インタフェース	43
8. 7. 3	Subject文	43
9.	拡張情報の追加における受付点検電文への添付ファイルの追加	44
9. 1	拡張内容	44
9. 2	バージョン情報	45
9. 2. 1	電文の形式	45
9. 2. 2	インタフェース部分の規定	45
9. 3	受付点検情報	46
9. 3. 1	電文の形式	46
9. 3. 2	拡張情報ファイル設定条件	47
9. 3. 3	エラー詳細情報	47
9. 3. 4	受付件数	48
10.	伝送インタフェース拡張におけるクライアントからの電文	49
10. 1	拡張内容	49
10. 2	上り連絡電文	49
10. 2. 1	連絡シーケンス	49
10. 2. 2	電文の形式	49
10. 2. 3	インタフェース部分	49
10. 2. 4	インタフェース部分の規定	49
10. 2. 5	独自情報部分	49
10. 2. 6	独自情報部分（メール本文）の規定	49
10. 2. 7	連絡内容部分（添付ファイル）の規定	49
10. 2. 8	上り連絡電文作成時の注意事項	49

付録		50
付録. a	伝送システムのエラーコード一覧	51
付録. b	外部接続システムのエラーコード一覧	53
付録. c	拡張情報の追加における受付点検電文への添付ファイル（拡張情報ファイル）の返却例	56
付録. d	拡張情報の追加における受付点検電文への添付ファイル（拡張情報ファイル）のデータ定義例	58

1. データ交換方式概要

1. 1 システムの目的

現在、さまざまな分野において、コンピュータ化が進められ事務処理が効率化されている。

介護保険制度でも、事務処理の効率化や人員増の抑制を図ることが求められており、可能な限りシステム化を推進している。

現行の医療保険制度では、紙のレセプトによる手作業の処理が大部分を占めているが、介護保険制度では、特にこの紙による処理を減らすことで事務処理等の効率化が図られている。

また、更なる効率化のため、伝送システムを導入することにより、都道府県・保険者・福祉事務所では各種情報の提供にかかる持ち込みの手間や郵送時間の削減ができ、居宅介護支援事業所、介護予防支援事業所（地域包括支援センター）、サービス事業所（以下総称して「事業所」とする）では、請求書等の提出にかかる請求事務の大幅な効率化が実現できる。

1. 2 対象となる交換情報

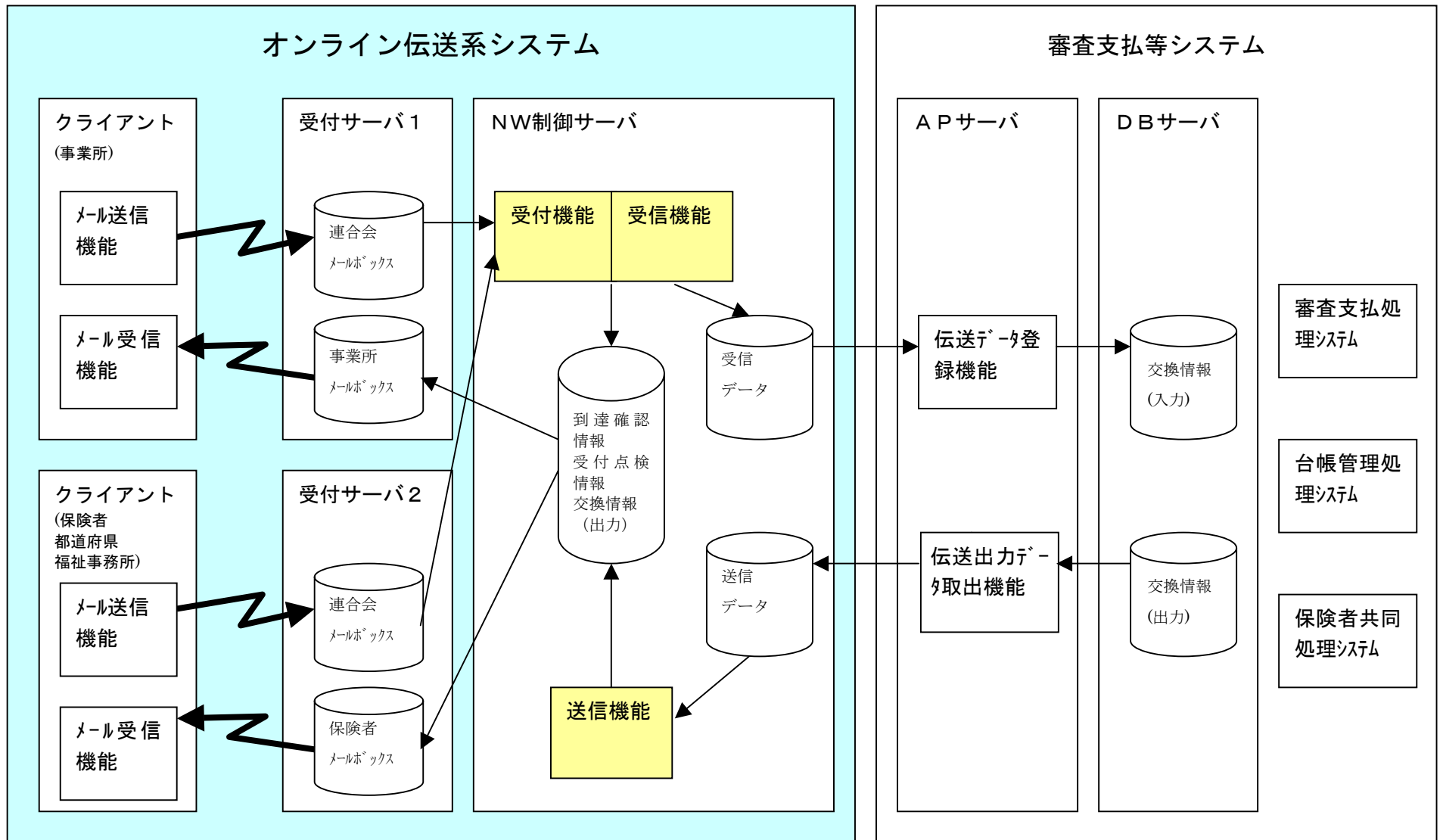
厚生労働省から出ている「インタフェース仕様書」に準拠する。

1. 3 システムの対象範囲

システムとしては、国保連合会中の審査支払等システム、給付系共同処理システム、資格系共同処理システムがあり、伝送システムは、都道府県、保険者、福祉事務所、事業所と国保連合会をつなぐシステムである。

伝送システムの範囲は、次頁の「システム概念図」のオンライン伝送システム部分である。今回規定するインタフェースは、オンライン伝送系システムのクライアントとメールサーバ間のインタフェースである。

システム概念図



2. 伝送プロトコル

2. 1 ネットワークプロトコルと接続方法

ネットワークプロトコルとして業界標準のTCP/IPを採用する。事業所、保険者から国保連合会への接続はISDN網を利用しターミナルアダプタによるダイヤルアップ（ダイヤルアップIP接続）とし、LAN間接続は行わない。

接続の契機はクライアント側からのみでありリモートクライアント接続とする。

審査支払等システムとは独立したオンライン請求システムを構成する。その事により、システムとしての独立性を維持し、運用設計の容易性の確保と保守性や信頼性の向上を図る。

次頁に「伝送システムの実装イメージ」を示す。

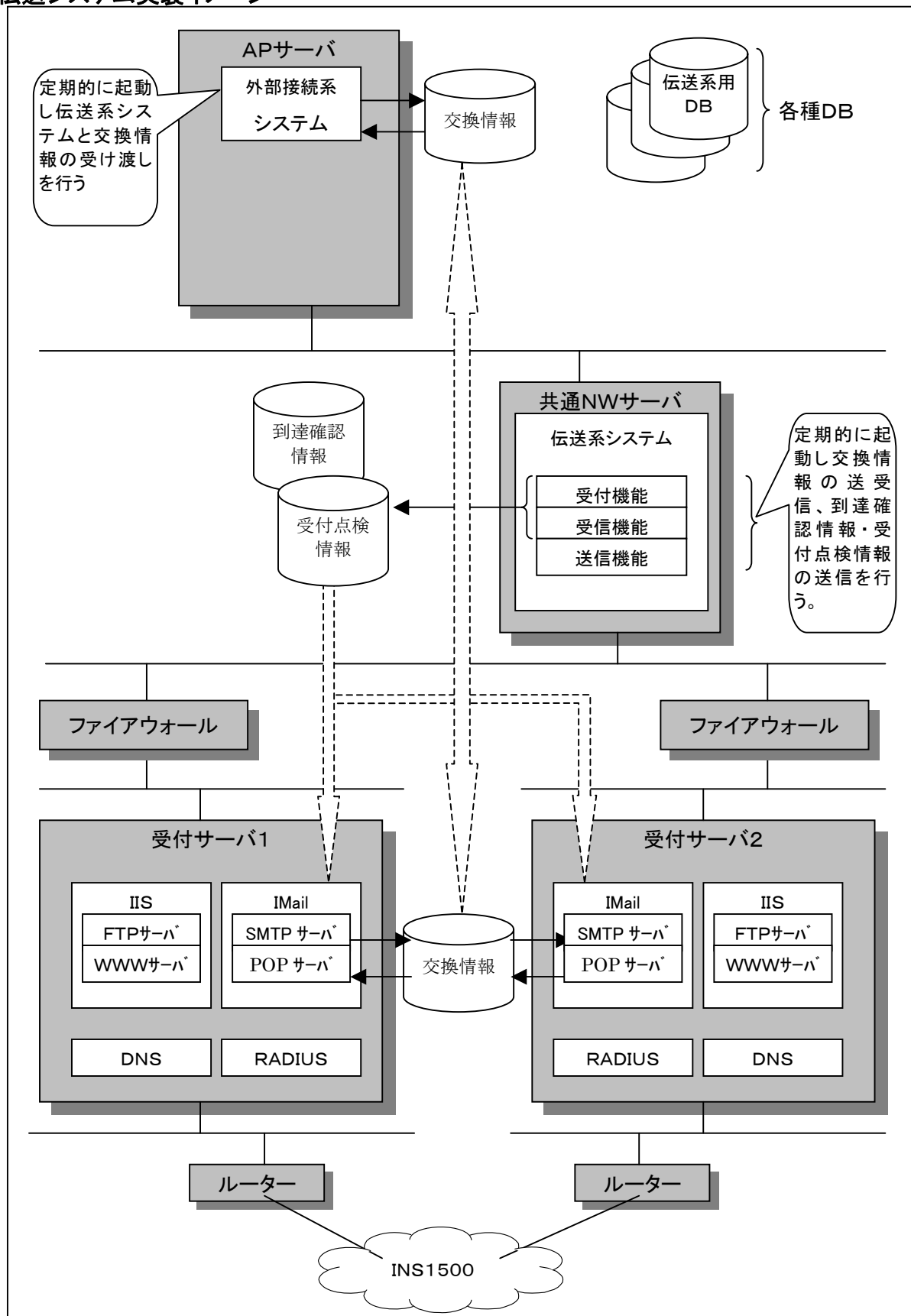
2. 2 データ転送プロトコル

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所とのデータ受理は、データ量と、接続容易性・信頼性向上を実現する目的で、UNIXやWindowsでは標準のメール転送プロトコル（SMTP、POP3）、およびファイル転送プロトコル（FTP）とする。

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所側からのデータ送信、国保連合会からの処理データの送信はメール転送プロトコルで行う。

ファイル転送プロトコルでのデータ転送は、オプション的なものであり、操作員の介入が必要となる。

伝送システム実装イメージ



3. 認証の考え方

3. 1 接続時の認証

伝送のセキュリティとして接続時に認証を行い所在チェック、利用者チェックを行う。

回線番号による所在チェック	申請を受けた電話番号（事務所の所在地）からの接続であることを認証する。
ユーザ ID, パスワードによる人(者)のチェック	利用権限をもった利用者であることを認証する。

- ・回線番号による所在チェックおよびユーザ ID, パスワードによる人(者)のチェックを行う。
- ・事業所においては、電子請求申請時に電話番号の通知が必要となる。
- ・回線番号は、都道府県、保険者、福祉事務所、事業所で複数もってもよい。

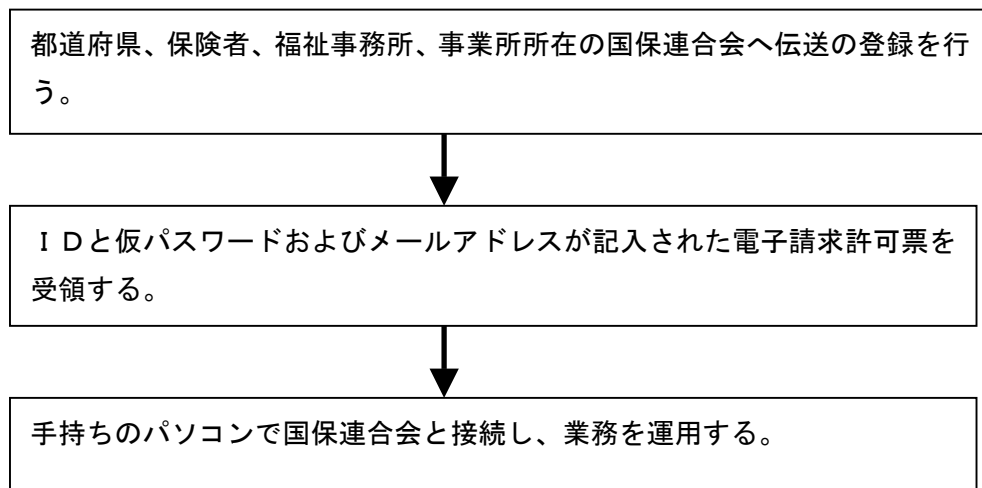
3. 2 データの保護

データの保護に関しては、接続時の認証により閉じたネットワークとなっているため、データの暗号化等はおこなわず、データの格納に関する保護のみを行う。

プロトコル	送受信データ
S M T P P O P 3	送信時：データを送信するのみで、送信後のデータはアクセス不可。 受信時：自分の ID に対するメールのみ受信可能。 なお、送受信とも他のデータのアクセスは、存在確認を含めすべて不可。
F T P	ダウンロード用のフォルダのアクセス権は参照のみに設定し、書き込みは不可にする。

3. 3 運用面

ID, パスワードの取得の流れを以下に示す。



3. 3. 1 ID, メールアドレスの割り振り

一都道府県／保険者／福祉事務所は、IDを最大34個迄申請できる。一事業所は、IDを最大10個迄申請できる。この時のID, メールアドレスの割り振りは以下のようなになる(ただし、英字A~ZのうちIおよびOは除く)。

<都道府県>

ID : K00000000+都道府県番号(2桁)+通番記号(1桁:0~9, A~Z)

メールアドレス : K00000000+都道府県番号(2桁)+通番記号(1桁:0~9, A~Z)@ドメイン名

<保険者>

ID : H0000+保険者番号(6桁)+通番記号(1桁:0~9, A~Z)

メールアドレス : H0000+保険者番号(6桁)+通番記号(1桁:0~9, A~Z)@ドメイン名

<福祉事務所>

ID : F0012+福祉事務所番号(6桁)+通番記号(1桁:0~9, A~Z)

メールアドレス : F0012+福祉事務所番号(6桁)+通番記号(1桁:0~9, A~Z)@ドメイン名

<事業所>

I D : J+事業所番号(10桁)+通番(1桁:0~9)

メールアドレス: J+事業所番号(10桁)+通番(1桁:0~9)@トメイン名

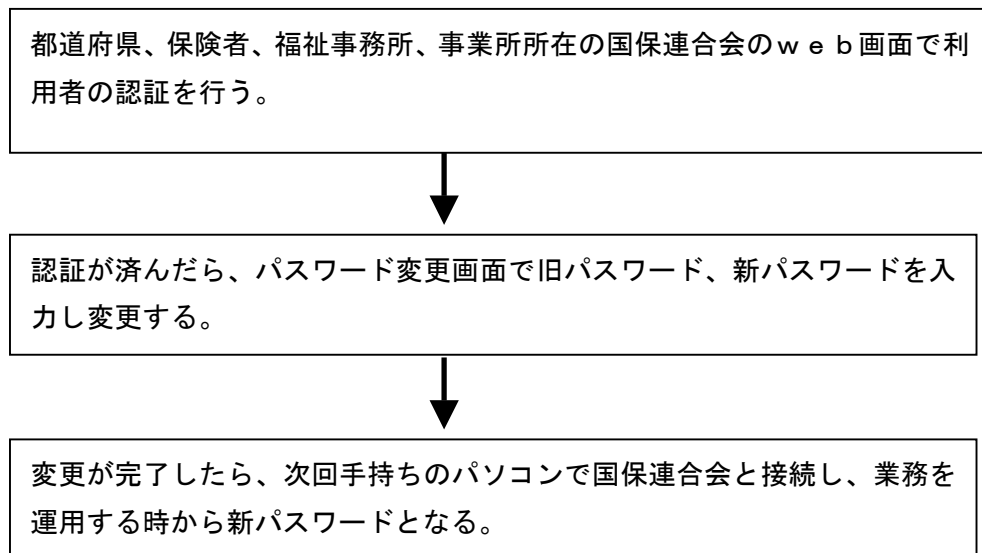
これ以降、事業所の I D, メールアドレスの通番 0(ゼロ)、都道府県/保険者
/福祉事務所の I D, メールアドレスの通番記号 0(ゼロ)をマスタ I D、マスタ
メールアドレスと呼ぶ。

3. 3. 2 パスワードの変更

電子サービスの登録申請を行うとID、仮パスワード、メールアドレスが記入された許可書を受け取る。ここで受け取るパスワードは、仮パスワードであるため、申請者で覚えやすく他にわからないようなパスワードに変更するのが望ましい。また、定期的にパスワードを変更することで漏洩防止につながる。

パスワード変更のURLおよび国保連合会アクセス番号に関しては、各国保連合会毎に設定している。

パスワード変更の流れを以下に示す。



3. 4 都道府県／保険者／福祉事務所／事業所へのセキュリティ要件

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所においては、パソコンの管理等セキュリティ対策を実施しなければならない。

	要件
所在地内	パソコン(PC)の利用者限定 入室管理
人(者)	ID、パスワードの漏洩防止

4. 電文のシーケンスおよびクライアントアプリケーションの仕様

4. 1 電文の種類

電文には大きく分けて、クライアント側からの電文とサーバ側からの電文の2つがある。あくまでも電文に対するトリガーはクライアント側からとなる（クライアント側からの送信、受信ともクライアント側からダイアルアップしなければならない）。

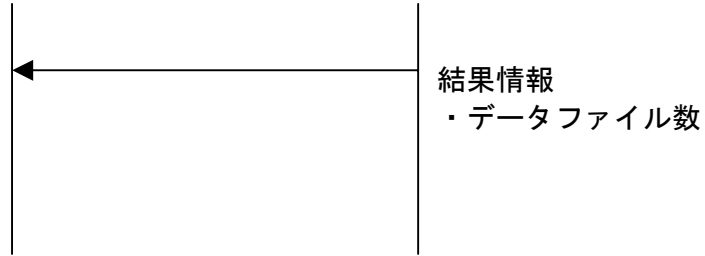
各事象と電文

事象	クライアント電文	サーバ電文
データ送信	データ送信	到達確認情報 受付点検情報
データ取り消し	データ取り消し	取り消し情報
データ受信(審査支払等システムからの出力)	なし	結果情報
サービス通知	なし	サービス情報
国保連合会からの連絡	なし	下り連絡情報
国保連合会への連絡	上り連絡情報	なし

4. 2. 3 審査支払等システムからの出力

クライアント

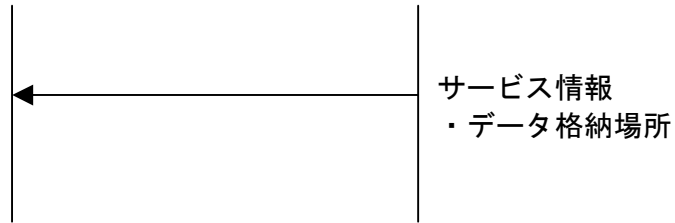
サーバ



4. 2. 4 サービス情報

クライアント

サーバ



4. 2. 5 下り連絡情報

クライアント

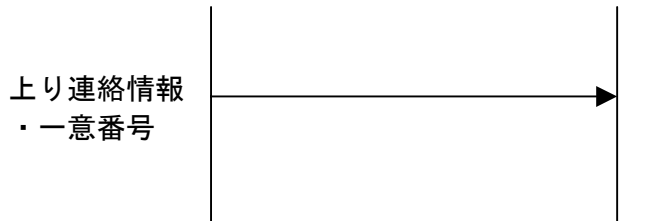
サーバ



4. 2. 6 上り連絡情報

クライアント

サーバ



4. 3 電文の処理タイミング

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所から送られてきたデータは、サーバ側で定期的に受け取りがおこなわれる。受け取ったデータは、ある一定時間毎に国保連合会の各処理システムに渡され処理される。

処理されたデータは、その結果が各都道府県、各保険者、各福祉事務所、各事業所のマスタメールボックスに蓄積される。

4. 4 電文の2重送信に関して

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所より誤ったデータを送信した場合、データ取り消し電文を送ることにより前回送信したデータは削除される(送信における電文のインターフェースは「5. 2. 1 (2)」を参照)。

データの取り消しに関しては、正しい電文と認識するまでの処理で可能であり、その後は外部インターフェースに基づく仕様の初回データ優先となる。

よって、削除可能なタイミングは、送信されたデータをサーバが国保連合会の各処理システムに渡すまで(サーバ側から登録情報を返却されるまで)の一定時間内に限る。この一定時間内に送られない場合は、国保連合会の各処理で処理されることになる。

同じデータを2度処理してしまった場合は、国保連合会の各処理の処理結果としてその旨が、交換情報として通知される。

4. 5 クライアント側における電文の受け取り場所

クライアント側が受ける電文の受け取り先は、サーバ電文により異なる。

サーバ電文の受理情報、受付情報は、クライアント電文のデータ送信を行なったアドレスに格納される。

サーバ電文の結果情報、更新情報は、都道府県、保険者、福祉事務所、事業所のマスタメールアドレスに格納される。

サーバ電文の結果情報には、クライアントからのデータ送信による処理要求に対する結果と、伝送以外の手段による処理要求に対する結果がある。

5. クライアント側でのデータ作成方法

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所との各種データの交換はメール転送プロトコルによる電文で行われる。

5. 1 電文の形式

電文は、大きくインタフェース部分（メールヘッダ）と本文とデータ部分（添付ファイル）からなっている。データ部分は複数あってもかまわない。

X-POP3-Rept:xxxxxxx…… Received: from xxxxxxxx…… : To: xxxxxx……… Subject: xxxxxxxx……… From: xxxxxxxx……… Date: xxxxxxx…… : X-IFArea: xxxxxxxx………	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	本文部分 (1行以上の空行)
LZH, CSV 形式	データ部分 (添付形式)

:
:

5. 2 インタフェース部分

クライアント側とサーバ側でのインタフェース部分であり、メールヘッダ中の Subject および、X-IFArea という識別 ID を付与し行なう (X-IFArea: 伝送システムが作成するヘッダ情報)。

Subject の指定文字列が、「5. 2. 1」で規定されたものでない場合、当システムの対象外データとして無視される。

インタフェース部のコード体系は、JISコード (ISO-2022-JP) で作成し、半角かなや特殊文字を含んではいけない。

メールヘッダ中の Date に RFC2822 規定にのっとり送信日時を設定しなければならない。

5. 2. 1 クライアント側電文毎のインタフェース部分の規定

(1) データ送信電文

Subject : Transmit DataSend

X-IFArea: 伝送整理番号, データファイル数

伝送整理番号 : 桁数20桁(識別番号(10桁)+整理番号(10桁))

識別番号 :

都道府県は、00000000+都道府県番号

保険者は、0000+保険者番号

福祉事務所は、0012+福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号 : 桁数10桁 ユニークとなる番号

データファイル数 : 桁数5桁 添付したデータファイル(拡張子.GSV)の数

説明)

伝送整理番号はクライアント側、サーバ側で管理される番号であり、伝送整理番号は、1都道府県、1福祉事務所、1保険者、1事業所内でユニークになるような番号体系にしなければならない。

例) 保険者番号666666より4件のデータファイルを送信する場合

Subject: Transmit DataSend

:

X-IFArea: 00006666661999061801,00004

(2) データ取り消し電文

Subject: Transmit DataDelete

X-IFArea: 伝送整理番号, 取り消し伝送整理番号

伝送整理番号 : 桁数20桁(識別番号(10桁)+整理番号(10桁))

識別番号 :

都道府県は、00000000+都道府県番号

保険者は、0000+保険者番号

福祉事務所は、0012+福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号 : 桁数10桁 ユニークとなる番号

取り消し伝送整理番号 : 取り消す伝送整理番号 形式は伝送整理番号を参照。

説明)

取り消す伝送整理番号を指定することにより、そのデータが取り消される。取り消し伝送整理番号は複数記述できない。

データ取り消し電文の取り消しはできない。

例) 伝送整理番号00006666661999061801のデータを取り消す場合

Subject: Transmit DataDelete

:

X-IFArea: 00006666661999061802, 00006666661999061801

5. 3 データ部分

データ部分に関しては、厚生労働省から出ている「インタフェース仕様書」に準拠する。

5. 4 クライアント側からの電文作成時の注意事項

(1) 添付ファイル名とデータ部の圧縮

データ送信電文の添付ファイル（CSVファイル）の命名規則は、以下のとおりとする。また、1電文中に同一ファイル名の添付ファイルがあってはならない。

任意の英数字（8桁以内）、CSV

データ送信電文のデータ部は圧縮して送信することが可能である。圧縮する場合はLHAで圧縮し、この場合のファイル名は、以下でなければならない。

任意の英数字（20桁以内）、LZH

解凍はネットワーク制御サーバで、外部接続にデータを渡す前に行われる。

(2) MIME変換

クライアントからのデータ送信時には、MIME変換して送信しなければならない。変換方法は、添付ファイル部分はBase64、メール本文は7bitとする。

(3) 伝送整理番号

伝送整理番号は、伝送システムでデータの受け渡しを行う際の識別番号である。伝送整理番号は、クライアント側で作成され以下の規則がある。

桁数20桁(識別番号(10桁)+整理番号(10桁))

識別番号：

都道府県は、00000000+都道府県番号

保険者は、0000+保険者番号

福祉事務所は、0012+福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号：桁数10桁 ユニークとなる番号（英数字）

伝送整理番号は、1都道府県、1福祉事務所、1保険者、1事業所内でユニークになるような番号体系にしなければならない。

伝送整理番号のサーバでの管理は、受付点検情報電文をクライアントに返却した時点で管理対象外となる。

サーバ側での伝送整理番号のチェックは以下を行う。

- ・20桁で、数字または英字（大文字）であるか
- ・都道府県／保険者／福祉事務所／事業所番号に誤りがないか（実際に存在するか）

(4) 送信日時

メールヘッダ中の Date に送信日時を設定すること。日時の設定に関しては RFC2822 の規定に則る。また、曜日は必須とする。

(5) To ヘッダおよび From ヘッダ

To ヘッダおよび From ヘッダに指定するメールアドレスは、以下のいずれかの形式とする。

① xxxxxxxxxxxx@ドメイン名

② “メールアドレスの説明” <xxxxxxxxxxxx@ドメイン名>

“メールアドレスの説明”は(前後のダブルクォーテーション記号を含み)40 バイト以内とする。

(6) Subject ヘッダ

文字列「Transmit」と「DataSend」または文字列「Transmit」と「DataDelete」の間には半角スペース 1 文字を設定する。半角スペースが入っていない場合、または半角スペースが2つ以上存在する場合は、当システムの対象データとしては認められないものとする。

(7) Content-Type ヘッダ

Content-Type ヘッダは添付ファイルの有無に合わせて以下の定義を行う。

【シングルパートの場合(ファイルを添付しない場合)】

- ・ Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
- ・

【マルチパートの場合(ファイルを添付する場合)】

- ・ Content-Type ヘッダは multipart/mixed;boundary="マルチパートの区切り文字";charset=iso-2022-jp とする
- ・ 第1パートを本文、以降のパートを各添付ファイルとする
- ・ 第1パートの Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
- ・ 第2パート以降の Content-Type ヘッダは application/octet-stream; name="添付ファイル名" とする
- ・ 第2パート以降の Content-Transfer-Encoding は Base64 とする

(8) 文字コード

メールヘッダ、交換情報作成時の文字コードはシフト J I S でなければならない。

(9) メールヘッダ全般

各メールヘッダに設定する項目の先頭に半角空白記号をひとつ設定しなければならない。また、設定する項目の末尾に余分な半角／全角空白記号やタブ記号を設定してはならない。

正常例) Subject: △Transmit△DataSend

エラー例 1) Subject: △△Transmit△DataSend

項目の先頭に半角空白記号をひとつ設定しなければならない

エラー例 2) Subject: △Transmit△DataSend△

項目の末尾に余分な半角／全角空白記号を設定してはならない

(10) 電文規約

電文は、上記の仕様に加えて RFC2822 に従い作成されなければならない。電文規約を満たさない電文を送信した場合、処理結果の保証はしない。

(11) サンプルイメージ

【シングルパートの場合】

```
To: transmit@denso.test.kokuho
From: Jxxxxxxxxx0@denso.test.kokuho
Subject: Transmit DataDelete
X-IFArea: xxxxxxxxxxx000000001, xxxxxxxxxxx000000002
Date: Thu, 08 Apr 2004 19:27:51 +0900
MIME-Version: 1.0
Content-Type: text/plain;
      charset=iso-2022-jp
Content-Transfer-Encoding: 7bit
      (空行)
```

メールヘッダ部	<ul style="list-style-type: none"> ① 電文送付先 ② 電文送付元 ③ 電文種別 ④ 伝送整理番号, 取消伝送整理番号 ⑤ 送信日時 ⑥ メール本文情報
---------	---

【マルチパートの場合】

```
To: transmit@denso.test.kokuho
From: Jxxxxxxxxx0@denso.test.kokuho
Subject: Transmit DataSend
X-IFArea: xxxxxxxxxxx000000000, 0000x
Date: Thu, 08 Apr 2004 19:27:51 +0900
MIME-Version: 1.0
Content-Type: multipart/mixed;
      boundary="マルチパートの区切り文字";
      charset=iso-2022-jp
Content-Transfer-Encoding: 7bit
      (空行)
--マルチパートの区切り文字
Content-Type: text/plain;
      charset=iso-2022-jp
      (空行)
--マルチパートの区切り文字
Content-Type: application/octet-stream;
      name="xxxxxxx1.csv"
Content-Transfer-Encoding: Base64
      (空行)
MSwwMDAwMDAwMDEsMDAwLDAwMDAwMDAwMiw4MjEsMTIsNDAwMDAwL
DAwMDAwMDAwMDAsMDAsNiwy
      (空行)
--マルチパートの区切り文字
Content-Type: application/octet-stream;
      name="xxxxxxxn.csv"
Content-Transfer-Encoding: Base64
      (空行)
MSwwMDAwMDAwMDEsMDAwLDAwMDAwMDAwMiw4MjEsMTIsNDAwMDAwL
DAwMDAwMDAwMDAsMDAsNiwy
      (空行)
--マルチパートの区切り文字--
```

メールヘッダ部	<ul style="list-style-type: none"> ① 電文送付先 ② 電文送付元 ③ 電文種別 ④ 伝送整理番号, 添付ファイル数 ⑤ 送信日時 ⑥ メール本文情報 ⑦ マルチパートの区切り文字 <p>(メールヘッダとメール本文区切)</p>
先頭パート	<p>(先頭のマルチパート)</p> <p>(MIMEヘッダとMIMEボディの区切)</p>
2番目のパート	<p>(2番目のマルチパート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧ メール本文情報 ⑨ 添付ファイル名 ⑩ エンコード方式 <p>(MIMEヘッダとMIMEボディの区切)</p> <p>⑪ MIMEボディ</p>
n番目のパート	<p>(n番目のマルチパート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧ メール本文情報 ⑨ 添付ファイル名 ⑩ エンコード方式 <p>(MIMEヘッダとMIMEボディの区切)</p> <p>⑪ MIMEボディ</p>
	<p>(マルチパートの終了)</p>

6. クライアント側での電文の受け取り方法

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所からの各種データは国保連合会を通し、審査支払等システム、給付系共同処理システム、資格系共同処理システムにおいて処理され、処理結果は対応する都道府県、保険者、福祉事務所、事業所へ送られる。

また、都道府県、保険者、福祉事務所、事業所から送られたデータに対する、到達確認情報、受付点検情報、取り消し情報等が都道府県、保険者、福祉事務所、事業所へ送られる。

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所へ送られる結果はメール転送プロトコルによる電文で行われる。

6. 1 電文の形式

電文は、大きくインタフェース部分（メールヘッダ）と本文とデータ部分（添付ファイル）からなっている。データ部分は複数になることもある。

X-POP3-Rept: xxxxxxxx…… Received: from xxxxxxxx…… : To: xxxxxxxx…… Subject: xxxxxxxx…… From: xxxxxxxx…… Date:xxxxxx…… : X-IFArea: xxxxxxxx……	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文 3行の空行	本文部分 3行の空行
LZH、CSV、TXT 形式	データ部分 (添付形式)

:

:

6. 2 インタフェース部分

クライアント側とサーバ側でのインタフェース部分であり、メールヘッダ中の Subject および、X-IFArea という識別 ID を付与し行なう (X-IFArea: 伝送システムが作成するヘッダ情報)。

インタフェース部のコード体系は、JISコード (ISO-2022-JP) で作成されており、半角かなや特殊文字を含んでいない。

メールヘッダ中の Date に RFC2822 規定にのっとり送信日時が設定されている。ただし、曜日は格納されている。

6. 2. 1 サーバ側電文毎のインタフェース部分の規定

(1) 到達確認情報返却時

Subject: Transmit Accept

X-IFArea: 伝送整理番号, 到達情報

伝送整理番号 : 桁数 20 桁 (識別番号 (10 桁) + 整理番号 (10 桁))

識別番号 :

都道府県は、00000000 + 都道府県番号

保険者は、0000 + 保険者番号

福祉事務所は、0012 + 福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号 : 桁数 10 桁 ユニークとなる番号

到達情報 : Success 正しく受け付けた
IFErr インタフェース部分に誤りがある。

説明)

到達確認情報における IFErr は、X-IFArea に対する指定に誤りがあつたり、伝送整理番号が 20 桁でない場合、添付ファイルの拡張子が LZH 又は、CSV ではない場合。

例) クライアントより送られた電文を正しく受け付けた場合

Subject: Transmit Accept

:

X-IFArea: 00006666661999061801, Success

補足説明)

到達確認情報は、クライアントから送られてきたデータを受付サーバから抽出した時点で返却される。よって、電文インタフェース部分の最低限のチェックにとどまる。この段階では、データが、審査支払システムで処理できるかどうか（データの構文が正しいか等）わからない。審査支払等システムで処理可能かどうかは、「受付点検情報の返却」をもって判断しなければならない。

(2) 受付点検情報返却時

Subject: Transmit Regist

:

X-IFArea: 伝送整理番号, 点検結果, (データファイル数,
データファイル名 1, 受付結果 (……データファイル名 1 0, 受付結果,
データファイル名 1 1, 受付結果……データファイル名 n n, 受付結果))

伝送整理番号 : 桁数 2 0 桁 (識別番号 (10 桁) + 整理番号 (10 桁))

識別番号 :

都道府県は、0 0 0 0 0 0 0 0 + 都道府県番号

保険者は、0 0 0 0 + 保険者番号

福祉事務所は、0 0 1 2 + 福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号 : 桁数 1 0 桁 ユニークとなる番号

点検結果 : Success 点検問題なし

CheckErr チェックエラー

データファイル数 : 桁数 5 桁 受け付けたデータファイル数

データファイル名 : データファイル名

受付結果 : Success 処理済み

DataErr データ不正

説明)

- ・クライアントから送られてきたデータを審査支払等システム(外部接続系)に登録する時点で返却される。
- ・チェックエラーとは、添付ファイルが圧縮されていた場合の解凍エラー、伝送整理番号の都道府県/保険者/福祉事務所/事業所番号に誤りがある場合等である。
- ・データ不正とは、データ中のフォーマットチェックにおいてのエラーであり、同一データの2重送信によるエラー等は、「(4) 交換情報返却時」で返される(「4. 4 電文の2重送信に関して」参照)。
- ・データファイル数、データファイル名、受付結果は、点検結果が Success の場合に返却される。

例) kyufu1.csv, kyufu2.csv ファイルにデータエラーがあった場合

Subject: Transmit Regist

:
X-IFArea:00006666661999061801, Success, 00002,
kyufu1.csv, DataErr, kyufu2.csv, DataErr

(3) 取り消し情報返却時

Subject: Transmit DeleteRegist

:

X-IFArea: 伝送整理番号, 取り消し伝送整理番号, 取り消し結果

伝送整理番号 : 桁数20桁(識別番号(10桁)+整理番号(10桁))

識別番号 :

都道府県は、00000000+都道府県番号

保険者は、0000+保険者番号

福祉事務所は、0012+福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号 : 桁数10桁 ユニークとなる番号

取り消し結果	: Success	削除成功
	IFErr	インタフェース部分に誤りがある。
	NoData	取り消し伝送整理番号のデータは存在しない、または既に処理済みのため削除できない

説明)

- ・クライアントから送られてきた取り消し伝送整理番号のデータをサーバ上から削除する。
- ・NoData とは、取り消し伝送整理番号のデータが誤っているか、既に審査支払等システムにデータが渡っているため削除できない場合等である。

例) 取り消し伝送整理番号0000666666199061801を削除した場合

Subject: Transmit DeleteRegist

:

X-IFArea:0000666666199061802, 0000666666199061801, Success

(4) 交換情報返却時

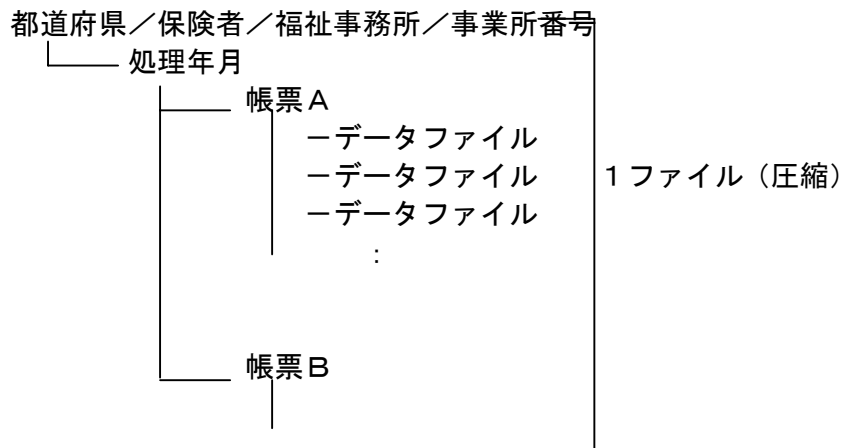
Subject: Transmit Result

:

X-IFArea: データファイル数

データファイル数: 桁数5桁 添付したデータファイル(拡張子.CSVまたは.XLS)の数

説明)・サーバから送られる交換情報は、宛先毎に複数データが圧縮されて1ファイルとして送られる。



- ・圧縮は、宛先毎にディレクトリ付きで圧縮される。
都道府県/保険者/福祉事務所/事業所番号フォルダ名:(10桁)
都道府県は、00000000+都道府県番号
保険者は、0000+保険者番号
福祉事務所は、0012+福祉事務所番号
事業所は、事業所番号
帳票フォルダ名: データ種別(3桁)
- ・交換情報のデータファイルの命名規則は以下のとおりである。
データ種別(3桁)+順次番号(5桁).CSV
- ・圧縮ファイルの命名規則は以下のとおりである。
都道府県/保険者/福祉事務所/事業所番号(10桁)+作成日付(8桁)+作成時刻(6桁).LZH
- ・処理年月は入力データのコントロールレコード中の処理対象年月フィールドの値とする。
ただし、台帳そのものの出力に関しては電話等、都道府県、保険者から依頼があった日時とする。

例) データファイル 2 個を受信する場合
Subject: Transmit Result
:
X-IFArea: 00002

6. 3 データ部分

データ部分に関しては、厚生労働省から出ている「インタフェース仕様書」に準拠する。

クライアントに送る直前に宛先毎にディレクトリ付きで圧縮される。

交換情報のデータファイルの命名規則、圧縮ファイルの命名規則については「6. 5 サーバ側からの電文作成時の詳細仕様」参照。

6. 4 各電文の送り先

サーバからの電文は、以下のアドレスに送られる。

サーバからの電文	送り先
到達確認情報	クライアントからの電文中の From アドレス
受付点検情報	
取り消し情報	
交換情報	マスタアドレス

6. 5 サーバ側からの電文作成時の詳細仕様

(1) 添付ファイル名とデータ部の圧縮

交換情報電文のデータファイルの命名規則は以下のとおりである。

データ種別 (3桁) + 順次番号 (5桁). CSV

交換情報電文のデータ部はデータファイルをディレクトリ付きで圧縮して送信する。交換情報電文の圧縮ファイルの命名規則は以下のとおりである。

都道府県 / 保険者 / 福祉事務所 / 事業所番号 (10桁) 作成日付 (8桁) + 作成時刻 (6桁). LZH

(2) MIME変換

サーバからのデータ送信時には、MIME変換して送信する。変換方法は、添付ファイル部分はBase64、メール本文は7bitとする。

(3) 送信日時

メールヘッダ中のDateに送信日時を設定する。日時の設定に関してはRFC2822の規定に則る。また、曜日を設定する。

(4) ToヘッダおよびFromヘッダ

ToヘッダおよびFromヘッダに指定するメールアドレスは、以下の形式とする。

xxxxxxxxxxxx@ドメイン名

(5) Content-Type ヘッダ

Content-Type ヘッダは添付ファイルの有無に合わせて以下の定義を行う。

【シングルパートの場合(ファイルを添付しない場合)】

- Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
-

【マルチパートの場合(ファイルを添付する場合)】

- Content-Type ヘッダは multipart/mixed;boundary="マルチパートの区切り文字";charset=iso-2022-jp とする
- 第1パートを本文、以降のパートを各添付ファイルとする
- 第1パートの Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
- 第2パート以降の Content-Type ヘッダは application/octet-stream; name="添付ファイル名" とする
- 第2パート以降の Content-Transfer-Encoding は Base64 とする

(6) 文字コード

メールヘッダ、交換情報作成時の文字コードはシフトJISを使用する。

(7) メールヘッダ全般

各メールヘッダに設定する項目の先頭に半角空白記号をひとつ設定する。

例) Subject: △Transmit△Accept

(8) 電文規約

電文は、上記の仕様に加えて RFC2822 に従い作成する。

(9) サンプルイメージ

【シングルパートの場合】

```
To: Jxxxxxxxxx0@denso.test.kokuho
From: transmit@denso.test.kokuho
Subject: Transmit Accept
X-IFArea: xxxxxxxx000000000, Success
Date: Thu, 08 Apr 2004 19:30:01 +0900
MIME-Version: 1.0
Content-Type: text/plain;
      charset=iso-2022-jp
Content-Transfer-Encoding: 7bit
      (空行)
```

メールヘッダ部	① 電文送付先
	② 電文送付元
	③ 電文種別
	④ 伝送整理番号, 取消伝送整理番号
	⑤ 送信日時
	⑥ メール本文情報

【マルチパートの場合】

```
To: Jxxxxxxxxx0@denso.test.kokuho
From: transmit@denso.test.kokuho
Subject: Transmit Result
X-IFArea: 0000x
Date: Thu, 08 Apr 2004 16:00:03 +0900
MIME-Version: 1.0
Content-Type: multipart/mixed;
      boundary="マルチパートの区切り文字";
      charset=iso-2022-jp
Content-Transfer-Encoding: 7bit
      (空行)
--マルチパートの区切り文字
Content-Type: text/plain;
      charset=iso-2022-jp
      (空行)
--マルチパートの区切り文字
Content-Type: application/octet-stream;
      name="xxxxxxxxxx20040408160000.lzh"
Content-Transfer-Encoding: Base64
      (空行)
MSwwMDAwMDAwMDEsMDAwLDAwMDAwMDAwMiw4MjEsMTIsNDAwMDAwL
DAwMDAwMDAwMDAsMDAsNiwy
      (空行)
--マルチパートの区切り文字--
```

メールヘッダ部	① 電文送付先
	② 電文送付元
	③ 電文種別
	④ 添付ファイル数
	⑤ 送信日時
	⑥ メール本文情報
	⑦ マルチパートの区切り文字
(メールヘッダとメール本文区切)	
メールデータ部	先頭パート (先頭のマルチパート)
	n番目のパート (n番目のマルチパート)
	n番目のパート (MIMEヘッダとMIMEボディの区切)
メールデータ部	⑧ メール本文情報
	⑨ 添付ファイル名
	⑩ エンコード方式
(MIMEヘッダとMIMEボディの区切)	
メールデータ部	⑪ MIMEボディ
	(マルチパートの終了)

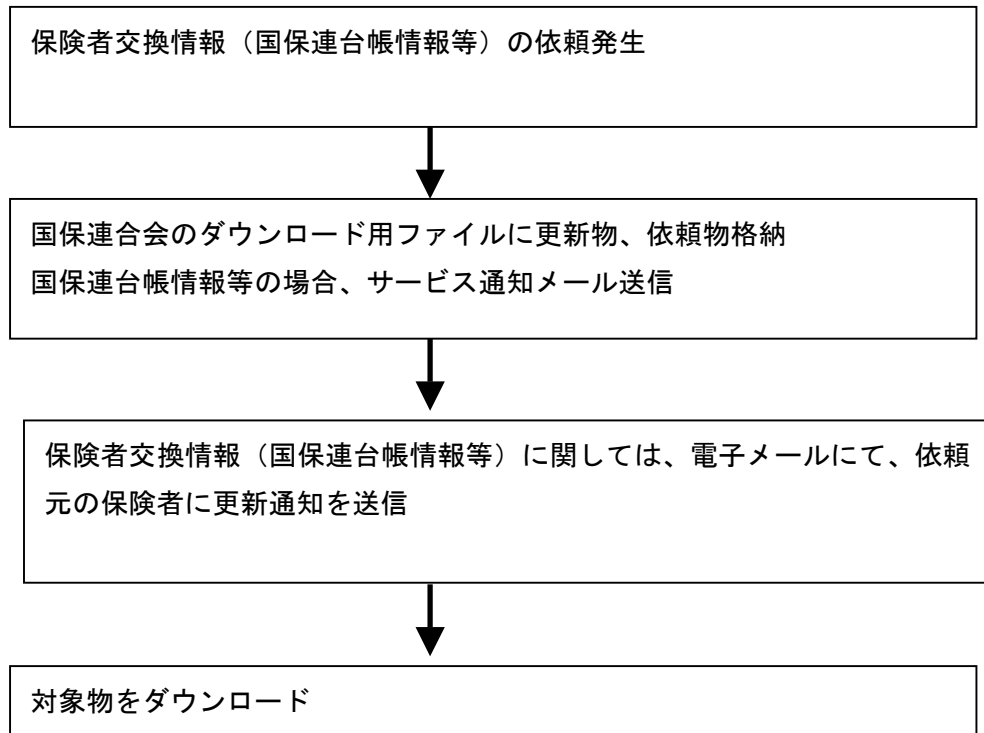
このページは白紙です

7. ファイルのダウンロードシーケンスとクライアント側アプリケーション (カスタマイズ要件)

F T P プロトコルでのデータ転送は、カスタマイズ要件とし操作員の介入が必要となる。

- 7. 1 ファイルのダウンロード対象物
 - ・ 保険者交換情報：国保連台帳情報等（1. 2. 2 参照）

- 7. 2 ダウンロードシーケンス



7. 3 サービス通知メール

7. 3. 1 電文の形式

電文は、インタフェース部分（メールヘッダ）と本文からなっている。

<pre>X-POP3-Rept:xxxxxxx····· Received: from xxxxxxxx····· : To: xxxxxx····· Subject: xxxxxxxx····· From: xxxxxx····· Date:xxxxxxx····· : X-IFArea: xxxxxxxx·····</pre>	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	

7. 3. 2 インタフェース部分

クライアント側とサーバ側でのインタフェース部分であり、メールヘッダ中の Subject および、X-IFArea という識別 ID を付与し行なう (X-IFArea: 伝送システムが作成するヘッダ情報。)

インタフェース部のコード体系は、JISコード (ISO-2022-JP) で作成されており、半角かなや特殊文字を含んでいない。

メールヘッダ中の Date に RFC822 規定にのっとり送信日時が設定されている。ただし、曜日は格納されており年は4桁である。

7. 3. 3 インタフェース部分の規定

(1) サービス情報送信時 (保険者交換情報時)

Subject: Transmit ExchangeInfo

X-IFArea: ディレクトリ

ディレクトリ : 格納場所

説明)

保険者交換情報の依頼のあった交換情報識別番号の格納情報を返却する。

例) 受給者台帳情報を依頼した場合
Subject: Transmit ExchangeInfo
:
X-IFArea: /kaigo/exchangeinfo322

7. 4 クライアント側アプリケーション

クライアント側アプリケーションは、サービス通知を受けたら、必要に応じて自動的に国保連合会のFTPサイトへ接続し、ダウンロードするしくみ等が必要となる。

8. 拡張機能におけるサーバからの電文

平成13年秋より、国保連合会側の審査支払等システムの機能拡張が行なわれ、それに伴いサーバ側からの電文を拡張する。

8. 1 拡張内容

以下の電文の拡張を行う。新規の電文として“下り連絡電文”及び“テスト環境での電文”を追加する。なお、サーバ側よりクライアントへ送信するメールには、バージョン情報も付加して送信する。

電文名称		Subject 内容	送信元	バージョン情報	拡張機能の有無
本番環境	データ送信	Transmit DataSend	クライアント	×	×
	データ取り消し	Transmit DataDelete	クライアント	×	×
	到達確認情報	Transmit Accept	サーバ	○	○
	受付点検情報	Transmit Regist	サーバ	○	○
	取り消し情報	Transmit DeleteRegist	サーバ	○	○
	交換情報	Transmit Result	サーバ	○	×
	下り連絡電文	Transmit Contact	サーバ	×	○
テスト環境	データ送信	Transmit DataSend	クライアント	×	×
	データ取り消し	Transmit DataDelete	クライアント	×	×
	到達確認情報	Test Accept	サーバ	○	○
	受付点検情報	Test Regist	サーバ	○	○
	取り消し情報	Test DeleteRegist	サーバ	○	○

[凡例] × : 追加/変更なし

○ : 追加/変更あり

拡張する電文	内容
到達確認情報	既存の電文。メールヘッダに拡張情報を付加する。
受付点検情報	既存の電文。メールヘッダに拡張情報（エラー情報を付加）を付加する場合と添付ファイルにエラー情報を付加する場合がある。
下り連絡電文	新規の電文。国保連合会からの連絡用に使用する。
テスト環境の電文	新規の電文。クライアントが国保連合会テスト環境で送受信テストを行うための電文である。

8. 2 バージョン情報

クライアント側へサーバ側伝送システムのバージョンを通知するため、以下の電文についてはバージョン情報をメールヘッダに追加し送信する。

	電文名称	Subject 内容	送信元
本番環境	到達確認情報	Transmit Accept	サーバ
	受付点検情報	Transmit Regist	サーバ
	取り消し情報	Transmit DeleteRegist	サーバ
	交換情報	Transmit Result	サーバ
テスト環境	到達確認情報	Test Accept	サーバ
	受付点検情報	Test Regist	サーバ
	取り消し情報	Test DeleteRegist	サーバ

8. 2. 1 電文の形式

バージョン情報は、インタフェース部分（メールヘッダ）に X-DensoVersion という識別 ID を追加する。

<pre>X-POP3-Rept: xxxxxxxx····· Received: from xxxxxxxx····· : To: xxxxxxxx····· Subject: xxxxxxxx····· From: xxxxxxxx····· Date:xxxxxx····· : X-DensoVersion: 2.01</pre>	<p>インタフェース部分 (メールヘッダ)</p>
--	-------------------------------

8. 2. 2 インタフェース部分の規定

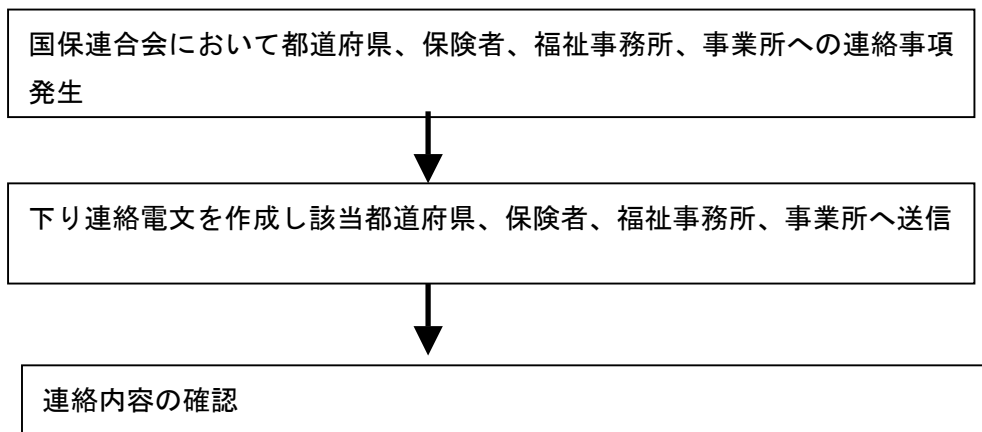
X-DensoVersion: バージョン情報

バージョン情報 : サーバ側のバージョンを半角の英数字 20 文字以内で設定

8. 3 下り連絡電文

国保連合会より都道府県、保険者、福祉事務所、事業所へメールを使用して連絡を行いたい場合、または資料を送りたい場合等のために下り連絡電文を設定する。下り連絡電文は国保連合会から都道府県、保険者、福祉事務所、事業所への連絡用とする。

8. 3. 1 連絡シーケンス



8. 3. 2 電文の形式

電文は、インタフェース部分（メールヘッダ）と連絡内容部分（メール本文、添付ファイル）からなっている。

X-POP3-Rept: xxxxxxxx…… Received: from xxxxxxxx…… : To: xxxxxxxx…… Subject: xxxxxxxx…… From: xxxxxxxx…… Date:xxxxxx…… :	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	連絡内容部分 (メール本文)
LZH、CSV、TXT 形式等	連絡内容部分 (添付ファイル)

8. 3. 3 インタフェース部分

クライアント側とサーバ側でのインタフェースを行う部分であり、メールヘッダ中の Subject に識別 ID を付与し行なう。

インタフェース部のコード体系は、J I Sコード（I S O - 2 0 2 2 - J P）で作成されており、半角かなや特殊文字を含んでいない。

8. 3. 4 インタフェース部分の規定

Subject: Transmit Contact

説明)

国保連合会からの下り連絡電文である識別。

8. 3. 5 連絡内容部分

国保連合会から、都道府県、保険者、福祉事務所、事業所への連絡内容を表す部分であり、メール本文と添付ファイルからなる。添付ファイルは付かない場合もある。

連絡内容部分（メール本文）のコード体系は、J I Sコード（I S O - 2 0 2 2 - J P）で作成されており、半角かなや特殊文字を含んでいない。

添付ファイル部分はB a s e 6 4、メール本文は7 b i tでM I M E変換して送られる。

8. 3. 6 連絡内容部分（メール本文）の規定

1行目 : 連絡内容の表題（識別）を表す。

2行目以降 : 連絡内容

説明)

国保連合会からの連絡内容が表されている。

例) 事業所に請求書の締め切り日を連絡する場合

Subject: Transmit Contact

:

----- (メール本文) -----

3月の請求書締め切りのお知らせ

3月の請求書の締め切りは、12日（月）17:00迄です。

8. 3. 7 連絡内容部分（添付ファイル）の規定

なし

説明)

国保連合会からの連絡内容が添付ファイル形式で表されている。

8. 3. 8 下り連絡電文作成時の詳細仕様

(1) 添付ファイル種別

下記の拡張子のファイルは添付ファイルとして送信しない。

「.ad」 「.adp」 「.crt」 「.ins」 「.mdb」 「.mde」 「.msc」 「.msp」 「.sct」 「.shb」
「.vb」 「.wsc」 「.wsf」 「.cpl」 「.shs」 「.vsd」 「.vst」 「.vss」 「.vsw」 「.asp」 「.bas」
「.bat」 「.chm」 「.cmd」 「.com」 「.hlp」 「.hta」 「.inf」 「.isp」 「.js」 「.jse」 「.lnk」
「.msi」 「.mst」 「.pcd」 「.pif」 「.reg」 「.scr」 「.vbe」 「.vbs」 「.ws」 「.wsh」

(2) M I M E 変換

サーバからのデータ送信時には、M I M E 変換して送信する。変換方法は、添付ファイル部分はB a s e 6 4、メール本文は7 b i tとする。

(3) 送信日時

メールヘッダ中の Date に送信日時を設定する。日時の設定に関しては RFC2822 の規定に則る。また、曜日を設定する。

(4) To ヘッダおよび From ヘッダ

To ヘッダおよび From ヘッダに指定するメールアドレスは、以下の形式とする。

xxxxxxxxxxxx@ドメイン名

(5) Content-Type ヘッダ

Content-Type ヘッダは添付ファイルの有無に合わせて以下の定義を行う。

【シングルパートの場合(ファイルを添付しない場合)】

- Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
-

【マルチパートの場合(ファイルを添付する場合)】

- Content-Type ヘッダは multipart/mixed;boundary="マルチパートの区切り文字";charset=iso-2022-jp とする
- 第 1 パートを本文、以降のパートを各添付ファイルとする
- 第 1 パートの Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
- 第 2 パート以降の Content-Type ヘッダは application/octet-stream; name="添付ファイル名" とする
- 第 2 パート以降の Content-Transfer-Encoding は Base64 とする

(6) 文字コード

メールヘッダ、交換情報作成時の文字コードはシフト J I S を使用する。

(7) メールヘッダ全般

各メールヘッダに設定する項目の先頭に半角空白記号をひとつ設定する。

例) Subject: △Transmit△Contact

(8) 電文規約

電文は、上記の仕様に加えて RFC2822 に従い作成する。

IFErr インタフェース部分に誤りがある

X-Ex1-IFArea: エラーコード

エラーコード : 英数字 6 桁でエラーコードを設定
(エラーコードについては付録を参照のこと)

例) クライアントより送られた電文がエラーの場合

Subject: Transmit Accept

:

X-IFArea: 00006666661999061801, IFErr

X-Ex1-IFArea: A11111

8. 5 受付点検情報

都道府県、保険者、福祉事務所、事業所から送られたデータがエラーであった場合、既存の受付点検情報の電文に拡張情報をメールヘッダまたは添付ファイルに付加して返信する。

8. 5. 1 電文の形式

電文は、大きくインタフェース部分（メールヘッダ）とデータ部分（添付ファイル）からなっている。

<pre>X-POP3-Rept: xxxxxxxx..... Received: from xxxxxxxx..... : To: xxxxxxxx..... Subject: xxxxxxxx..... From: xxxxxxxx..... Date: xxxxxx..... : X-IFArea: xxxxxxxx..... X-Ex1-IFArea: xxxxxxxx..... ← 拡張情報 1 X-Ex2-IFArea: xxxxxxxx..... ← 拡張情報 2 X-Ex3-IFArea: xxxxxxxx..... ← 拡張情報 3</pre>	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	本文部分 3行空行
TXT 形式	データ部分 (添付形式)

8. 5. 2 拡張情報及び添付ファイル設定条件

メールヘッダに拡張情報が付加されるのは、以下の場合である。また、拡張情報3を設定した場合は、添付ファイルにエラーの詳細情報を格納する。

- ・ X-IFArea の点検結果の項目が“チェック・エラー (CheckErr)” の場合、拡張情報 1 (X-Ex1-IFArea 文) を設定する。
- ・ 受付結果の項目が 1 つでも“レコード不正 (DataErr)” の場合、拡張情報 2 (X-Ex2-IFArea 文) を設定する。
- ・ 受付結果の項目が 1 つでも“処理済み (Success)” で、CSV ファイルの様式チェックでエラーの場合、拡張情報 3 (X-Ex3-IFArea 文) を設定する。

X-IFArea の情報 / CSV ファイル内容			拡張情報	
点検結果	受付結果	審査支払チェック結果	メールヘッダ	添付ファイル
CheckErr	設定なし		○: 拡張情報 1 を設定する	×: 添付ファイルはない
Success	全て DataErr		○: 拡張情報 2 を設定する	×: 添付ファイルはない
Success	1 つでも Success がある	エラーあり (様式チェックエラー時)	○: 拡張情報 2, 3 を設定する	○: 添付ファイルがある
Success	1 つでも Success がある	エラーなし	○: 拡張情報 2 を設定する	×: 添付ファイルはない
Success	全て Success	エラーあり (様式チェックエラー時)	○: 拡張情報 3 を設定する	○: 添付ファイルがある
Success	全て Success	エラーなし	×: 拡張情報は設定しない	×: 添付ファイルはない

8. 5. 3 インタフェース部分の規定

拡張情報として、以下の情報をメールヘッダに追加する。

- ・ 拡張情報 1 (X-Ex1-IFArea) : 主に伝送システムでのチェックエラー情報
- ・ 拡張情報 2 (X-Ex2-IFArea) : 主に外部接続システムでのチェックエラー情報
- ・ 拡張情報 3 (X-Ex3-IFArea) : 主に審査支払システムの様式チェックエラー情報

Subject: Transmit Regist

:

X-IFArea: 伝送整理番号, 点検結果, (データファイル数,
データファイル名 1, 受付結果 (……データファイル名 1 0, 受付結果,
データファイル名 1 1, 受付結果……データファイル名 n n, 受付結果))

伝送整理番号 : 桁数 2 0 桁 (識別番号 (10 桁) + 整理番号 (10 桁))
識別番号 :
都道府県は、0 0 0 0 0 0 0 0 + 都道府県番号
保険者は、0 0 0 0 + 保険者番号
福祉事務所は、0 0 1 2 + 福祉事務所番号
事業所は、事業所番号
整理番号 : 桁数 1 0 桁 ユニークとなる番号

点検結果 : Success 点検問題なし
CheckErr チェックエラー
データファイル数 : 桁数 5 桁 受け付けたデータファイル数
データファイル名 : データファイル名
受付結果 : Success 処理済み
DataErr レコード不正

X-Ex1-IFArea: エラーコード

エラーコード : 英数字 6 桁でエラーコードを設定
(エラーコードについては付録を参照のこと)

X-Ex2-IFArea: データファイル名 1, エラーコード 1, ……,
(データファイル名 n n, エラーコード n n)

データファイル名 : エラーのデータファイル名を設定
エラーコード : 英数字 6 桁でエラーコードを設定
(エラーコードについては付録を参照のこと)

X-Ex3-IFArea: データファイル名 1, ……,(データファイル名 n n)

データファイル名 : エラーのデータファイル名を設定

例 1) 3 個の CSV ファイルが圧縮され、解凍時にエラーがあった場合

Subject: Transmit Regist

:

X-IFArea: 00006666661990061801, CheckErr, 00003

X-Ex1-IFArea: A22222

例 2) 3 個の CSV ファイルの 1 ファイルが外部接続システムでエラーがあり、残りの
2 つのファイルは審査支払システムの様式チェックで正常な場合

Subject: Transmit Regist

:

X-IFArea: 00006666661990061801, Success, 00003,

AAAA. csv, Success, BBBB. csv, DataErr, CCCC. csv, Success

X-Ex2-IFArea: BBBB. csv, A00100

例 3) 3 個の CSV ファイルの 1 ファイルが外部接続システムでエラーがあり、残りの
2 つのファイルは審査支払システムの様式チェックでエラーの場合

Subject: Transmit Regist

:

X-IFArea: 00006666661990061801, Success, 00003,

AAAA. csv, Success, BBBB. csv, DataErr, CCCC. csv, Success

X-Ex2-IFArea: BBBB. csv, A00100

X-Ex3-IFArea: AAAA. csv, CCCC. csv

8. 5. 4 データ部分（添付形式）の規定

メールヘッダに拡張情報3（X-Ex3-IFArea 文）を設定した場合、添付ファイルにそのエラー情報を格納する。

添付ファイルとして、エラーの情報をファイル名“CsvErr.txt”として返信する。
以下の形式でエラーのデータファイルの数だけ、レコードを出力する。

1つのデータファイルのエラーは、1レコードとして格納する。各レコードの終端には復帰／改行コードを設定する。

データファイル名 1, エラー行番号, エラー項目番号, エラーコード 1, エラー内容
データファイル名 2, エラー行番号, エラー項目番号, エラーコード 2, エラー内容
：
データファイル名 n, エラー行番号, エラー項目番号, エラーコード n, エラー内容

- ・ データファイル名

エラーのデータファイル名を設定

- ・ エラー行番号

エラー行番号は、送信されたファイル自体の先頭よりのレコード番号である。
コントロールレコードがファイルの第一レコードにあるが、このレコードが先頭レコード（行番号=1）になる。

- ・ エラー項目番号

エラー項目番号はデータレコードのデータ項目の番号である。
データレコードは以下のような形式である。

項番	項目	内容
1	レコード種別	データレコードを示す”2”を設定。
2	レコード番号(連番)	数字の連番
3	データ	CSV形式でデータを設定。 この先頭項目（通常は交換情報識別番号）が項目番号“1”となる。
4	ブランク	改行を設定

- ・ エラーコード

英数字2桁で審査エラーコードを設定

- ・ エラー内容

日本語で審査エラー内容を設定

8. 6 取り消し情報

クライアント側よりデータ取り消し電文を受信し、チェックしエラーであった場合、既存の取り消し情報の電文に拡張情報をメールヘッダに付加する。

8. 6. 1 電文の形式

電文は、インタフェース部分（メールヘッダ）からなっている。

X-POP3-Rept: xxxxxxxx…… Received: from xxxxxxxx…… : To: xxxxxxxx…… Subject: xxxxxxxx…… From: xxxxxxxx…… Date:xxxxxx…… : X-IFArea: xxxxxxxx…… X-Ex1-IFArea: xxxxxxxx…… ← 拡張情報 1	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	本文部分 3行空行

8. 6. 2 インタフェース部分の規定

取り消し結果が削除成功 (Success) 以外の場合、拡張情報 1 を設定する。

Subject: Transmit DeleteRegist

:

X-IFArea: 伝送整理番号, 取り消し伝送整理番号, 取り消し結果

伝送整理番号 : 桁数 20 桁 (識別番号 (10 桁) + 整理番号 (10 桁))

識別番号 :

都道府県は、00000000 + 都道府県番号

保険者は、0000 + 保険者番号

福祉事務所は、0012 + 福祉事務所番号

事業所は、事業所番号

整理番号 : 桁数 10 桁 ユニークとなる番号

取り消し結果	: Success	削除成功
	IFErr	インターフェース部分に誤りがある。
	NoData	取り消し伝送整理番号のデータは存在しない、または既に処理済みのため削除できない

X-Ex1-IFArea: エラーコード

エラーコード : 英数字6桁でエラーコードを設定
(エラーコードについては付録を参照のこと)

8. 7 テスト環境インタフェース

事業所がデータを申請する前に、あらかじめテスト環境にてテストを行って伝送システムの正当性を確認できる環境におけるインタフェースを規定する。

ここでの規定は、テスト環境での受付サーバ折り返し機能におけるものである。よって、テスト環境で受付サーバ折り返し機能以外の場合は、本請求登録用環境（本番環境）に準ずるインタフェースとなる。

8. 7. 1 クライアントからの送信電文インタフェース

クライアントからのインタフェースは、メールヘッダなど全て、本請求登録用環境（本番環境）と同じである。

8. 7. 2 サーバからの送信電文インタフェース

サーバからのインタフェースは、メールヘッダの Subject を除いて、本請求登録用環境（本番環境）と同じである。ただし、9章の拡張情報ファイルは添付しない。

8. 7. 3 Subject 文

本番環境とテスト環境用の Subject 文は以下のとおりである。

電文名称	本番環境 Subject	テスト環境 Subject (受付サーバ折り返し機能の場合)	テスト環境 Subject (受付サーバ折り返し機能以外の場合)
データ送信	Transmit DataSend	Transmit DataSend	Transmit DataSend
データ取り消し	Transmit DataDelete	Transmit DataDelete	Transmit DataDelete
到達確認情報	Transmit Accept	Test Accept	Transmit Accept
受付点検情報	Transmit Regist	Test Regist	Transmit Regist
取り消し情報	Transmit DeleteRegist	Test DeleteRegist	Transmit DeleteRegist
交換情報	Transmit Result	なし	Transmit Result
下り連絡電文	Transmit Contact	なし	Transmit Contact

9. 拡張情報の追加における受付点検電文への添付ファイルの追加

都道府県、保険者、福祉事務所または事業所から送られたデータに対して、受付点検電文にエラー情報と受付情報を含む拡張情報ファイルを追加する。

9. 1 拡張内容

以下の電文の拡張を行う。

電文名称	Subject 内容	送信元	受付点検電文への拡張情報ファイルの追加の有無	
本 番 環 境	データ送信	Transmit DataSend	クライアント	×
	データ取り消し	Transmit DataDelete	クライアント	×
	到達確認情報	Transmit Accept	サーバ	×
	受付点検情報	Transmit Regist	サーバ	○
	取り消し情報	Transmit DeleteRegist	サーバ	×
	交換情報	Transmit Result	サーバ	×
	下り連絡電文	Transmit Contact	サーバ	×
テ ス ト 環 境	データ送信	Transmit DataSend	クライアント	×
	データ取り消し	Transmit DataDelete	クライアント	×
	到達確認情報	Test Accept	サーバ	×
	受付点検情報	Test Regist	サーバ	×
	取り消し情報	Test DeleteRegist	サーバ	×

[凡例] × : 追加/変更なし

○ : 追加/変更あり

拡張する電文	内容
受付点検情報	既存の電文。8章の拡張機能に加え拡張情報ファイルにエラー情報、受付情報付加し添付する。

9. 2 バージョン情報

クライアント側へサーバ側伝送システムのバージョンを通知するため、以下の電文についてはバージョン情報をメールヘッダに追加し送信する。

	電文名称	Subject 内容	送信元
本番 環境	到達確認情報	Transmit Accept	サーバ
	受付点検情報	Transmit Regist	サーバ
	取り消し情報	Transmit DeleteRegist	サーバ
	交換情報	Transmit Result	サーバ

9. 2. 1 電文の形式

バージョン情報は、インタフェース部分（メールヘッダ）に X-DensoVersion という識別 ID である。

X-POP3-Rept: xxxxxxxx…… Received: from xxxxxxxx…… : To: xxxxxxxx…… Subject: xxxxxxxx…… From: xxxxxxxx…… Date: xxxxxx…… : X-DensoVersion: 3.01

インタフェース部分
(メールヘッダ)

9. 2. 2 インタフェース部分の規定

X-DensoVersion: バージョン情報

バージョン情報 : サーバ側のバージョンを半角の英数字 20 文字以内で設定 (3.01 を設定)

9. 3 受付点検情報

以下の2点を「8. 5 受付点検情報」の電文に拡張情報ファイルとして添付し返信する。

- ・エラー詳細情報
- ・受付件数情報

9. 3. 1 電文の形式

電文は、大きくインタフェース部分（メールヘッダ）とデータ部分（添付ファイル）からなっている。

<pre>X-POP3-Rept: xxxxxxxx····· Received: from xxxxxxxx····· : To: xxxxxxxx····· Subject: xxxxxxxx····· From: xxxxxxxx····· Date:xxxxxx····· : X-IFArea: xxxxxxxx····· X-Ex1-IFArea: xxxxxxxx····· X-Ex2-IFArea: xxxxxxxx····· X-Ex3-IFArea: xxxxxxxx·····</pre>	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	本文部分 3行空行
TXT 形式	データ部分 (添付形式)

9. 3. 2 拡張情報ファイル設定条件

常に、添付ファイルとして受付情報、エラーがあった場合はエラー情報が付加される。

9. 3. 3 エラー詳細情報

エラー情報を詳細化して返却する。

(1) 返却内容

エラーデータファイル名, エラー行番号, 交換情報識別番号, 保険者（事業所）番号, 被保険者番号, サービス提供年月, サービス種類, エラー項目番号, エラー項目名, エラーコード, エラー内容

- ・ エラーデータファイル名
エラーのデータファイル名を設定
- ・ エラー行番号
エラー行番号は、送信されたファイル自体の先頭よりのレコード番号である。コントロールレコードがファイルの第一レコードにあるが、このレコードが先頭レコード（行番号＝1）になる。
- ・ 交換情報識別番号
交換情報識別番号を設定
- ・ 保険者（事業所）番号
保険者（事業所）番号を設定
- ・ 被保険者番号
被保険者番号を設定
- ・ サービス提供年月
サービス提供年月を設定
- ・ サービス種類
サービス種類を設定
- ・ エラー項目番号
エラー項目番号はデータレコードのデータ項目の番号である。
データレコードは以下のような形式である。

項番	項目	内容
1	レコード種別	データレコードを示す”2”を設定。
2	レコード番号(連番)	数字の連番
3	データ	CSV形式でデータを設定。 この先頭項目（通常は交換情報識別番号）が項目番号“1”となる。

4	ブランク	改行を設定
---	------	-------

- ・ エラー項目名
エラー項目名を設定
- ・ エラーコード
英数字2桁で審査エラーコードを設定
- ・ エラー内容
日本語で審査エラー内容を設定

9. 3. 4 受付件数

伝送において、事業所がデータを送ったが、請求書、給付管理票の両方送ったつもりで片方しか送っていなかったり、複数受給者分送ったつもりで1受給者分しか送っていなかったりすることがあり、支払い時の問題となることがある。

受付点検電文において、CSV単位に請求書、給付管理票、再審査申立書の件数を返却する。

都道府県、保険者、福祉事務所からの交換情報は対象外（給付管理票は対象）とするが、全レコード件数のみ返却するものとする。

(1) 返却内容

受付データファイル名, 受付交換情報識別番号, 全レコード件数, 明細書件数
--

注意) 明細書件数は、請求書、給付管理票、再審査申立書の場合に表示される。

(2) 返却方法

情報の返却は、拡張情報ファイル (TransmitInfo.txt) を添付ファイルとして受付点検電文で通知される。

添付ファイルは、XML VERSION 1.0 に準拠している (詳細は付録 c, d 参照)。

```
<?xml version=" 1.0" encoding=" Shift_JIS" ?>
<伝送情報>
  <受付>
    <受付情報>
      <XXXXXXXXXX>XXXXXXXXXX</XXXXXXXXXX>
      <XXXXXXXXXX>XXXXXX</XXXXXXXXXX>
      <XXXXXXXXXX>XXXX</XXXXXXXXXX>
      <XXXXXX>XXXX</XXXXXX>
    </XXXXXXXX>
  </受付情報>
</受付>
<エラー>
  <エラー情報>
    <XXXXXXXXXX>XXXXXXXXXX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXXXXXX>XXXXXX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXXXXXX>XXXXXXXXXX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXXXXXX>XXXXXXXXXX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXXXXXX>XXXXXX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXXXXXX>XX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXX>XX</XXXXXX>
    <XXXX>XXXXXXXXXX</XXXX>
    <XXXXXXXXXX>XX</XXXXXXXXXX>
    <XXXXXXXXXX>XXXXXXXXXXXXXXXXXX</XXXXXXXXXX>
  </エラー情報>
</エラー>
</伝送情報>
```

10. 伝送インタフェース拡張におけるクライアントからの電文

都道府県、保険者、福祉事務所から国保連合会へデータ送信を行うため、上り連絡情報を追加する。各国保連合会独自の情報の受け渡しを可能とするため、汎用的なインタフェースとして定義する。受け付けるデータの内容は独自情報として各国保連合会ごとに定義され、定義されていないデータや制限事項を満たさないデータは受け付けない。データに添付されるファイル数や各添付ファイルのサイズ、拡張子等を制限事項として独自情報に含めて定義される場合がある。

10.1 拡張内容

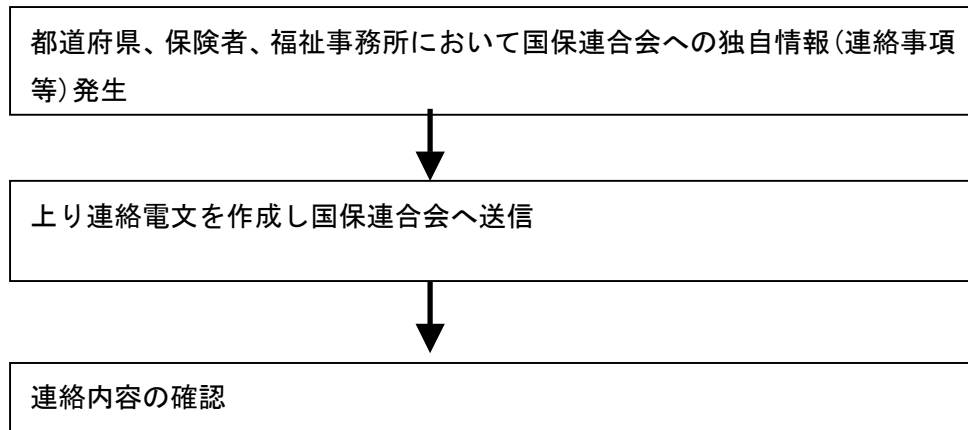
以下の電文の拡張を行う。

電文名称	Subject 内容	送信元
上り連絡電文	Transmit 独自情報名	クライアント

10.2 上り連絡電文

都道府県、保険者、福祉事務所から国保連合会へメールを使用して独自情報を送付する場合のために上り連絡電文を設定する。

10.2.1 連絡シーケンス



10. 2. 2 電文の形式

電文は、インタフェース部分（メールヘッダ）と独自情報部分（メール本文、添付ファイル）からなっている。

X-POP3-Rept: xxxxxxxx…… Received: from xxxxxxxx…… : To: xxxxxxxx…… Subject: xxxxxxxx…… From: xxxxxxxx…… Date:xxxxxx…… :	インタフェース部分 (メールヘッダ)
本文	連絡内容部分 (メール本文)
LZH、CSV、TXT 形式等	連絡内容部分 (添付ファイル)

10. 2. 3 インタフェース部分

クライアント側とサーバ側でのインタフェースを行う部分であり、メールヘッダ中の Subject に識別 ID（独自情報名）を付与し行なう。

インタフェース部のコード体系は、JISコード（ISO-2022-JP）で作成されており、半角かなや特殊文字を含んでいない。

10. 2. 4 インタフェース部分の規定

Subject: Transmit 独自情報名
X-IFArea: 一意番号[, パラメータ]

独自情報名 : 桁数20桁以内(英数字)
一意番号 : 桁数20桁 独自情報ごとにユニークとなる番号(英数字)
パラメータ : 独自情報ごとに任意の文字を設定することができる。省略も可能。桁数30桁以内(英数字/記号)とする。

説明)

国保連合会の独自情報向けの上り連絡電文である旨を Subject ヘッダに記述する。X-IFArea ヘッダのパラメータは独自情報で定義されている内容を設定する。

10. 2. 5 独自情報部分

都道府県、保険者、福祉事務所から国保連合会への、独自情報を表す部分であり、メール本文と添付ファイルからなる。添付ファイルは付かない場合もある。

連絡内容部分（メール本文）のコード体系は、JISコード（ISO-2022-JP）で作成されており、半角かなや特殊文字を含んでいない。

添付ファイル部分はBase64、メール本文は7bitでMIME変換して送られる。

10. 2. 6 独自情報部分（メール本文）の規定

なし。

10. 2. 7 連絡内容部分（添付ファイル）の規定

添付ファイルの内容、添付ファイル数、および各添付ファイルのサイズは、各独自情報で定義されている内容に従う。

10. 2. 8 上り連絡電文作成時の注意事項

(1) 添付ファイル種別

下記の拡張子のファイルは添付ファイルとして送信してはならない。

「.ad」「.adp」「.crt」「.ins」「.mdb」「.mde」「.msc」「.msp」「.sct」「.shb」「.vb」「.wsc」「.wsf」「.cpl」「.shs」「.vsd」「.vst」「.vss」「.vsw」「.asp」「.bas」「.bat」「.chm」「.cmd」「.com」「.hlp」「.hta」「.inf」「.isp」「.js」「.jse」「.lnk」「.msi」「.mst」「.pcd」「.pif」「.reg」「.scr」「.vbe」「.vbs」「.ws」「.wsh」

また、「.lzh」が添付された場合は、解凍後のファイルが「10. 2. 7 連絡内容部分（添付ファイル）の規定」および「10. 2. 8 上り連絡電文作成時の注意事項」を満たしていなければならない。

(2) MIME変換

クライアントからのデータ送信時には、MIME変換して送信しなければならない。変換方法は、添付ファイル部分はBase64、メール本文は7bitとする。

(3) 一意番号

一意番号は、上り連絡電文を区別するための識別番号である。独自情報ごとにユニークでなければならない。

(4) 送信日時

メールヘッダ中の Date に送信日時を設定すること。日時の設定に関しては RFC2822 の規定に則る。また、曜日は必須とする。

(5) To ヘッダおよび From ヘッダ

To ヘッダおよび From ヘッダに指定するメールアドレスは、以下のいずれかの形式とする。

① xxxxxxxxxxxx@ドメイン名

② “メールアドレスの説明” <xxxxxxxxxxxx@ドメイン名>

“メールアドレスの説明”は(前後のダブルクォーテーション記号を含み)40 バイト以内とする。

(6) Content-Type ヘッダ

Content-Type ヘッダは添付ファイルの有無に合わせて以下の定義を行う。

【シングルパートの場合(ファイルを添付しない場合)】

- Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
-

【マルチパートの場合(ファイルを添付する場合)】

- Content-Type ヘッダは multipart/mixed;boundary="マルチパートの区切り文字";charset=iso-2022-jp とする
- 第 1 パートを本文、以降のパートを各添付ファイルとする
- 第 1 パートの Content-Type ヘッダは text/plain;charset=iso-2022-jp とする
- 第 2 パート以降の Content-Type ヘッダは application/octet-stream; name="添付ファイル名" とする
- 第 2 パート以降の Content-Transfer-Encoding は Base64 とする

(7) Subject ヘッダ

文字列「Transmit」と独自情報名の間には半角スペース 1 文字を設定する。半角スペースが入っていない場合、または半角スペースが 2 つ以上存在する場合は、当システムの対象データとしては認められないものとする。

(8) 文字コード

メールヘッダ、交換情報作成時の文字コードはシフト J I S でなければならない。

(9) メールヘッダ全般

各メールヘッダに設定する項目の先頭に半角空白記号をひとつ設定しなければならない。また、設定する項目の末尾に余分な半角／全角空白記号やタブ記号を設定してはならない。

正常例) Subject: △Transmit△sample

エラー例 1) Subject: △△Transmit△sample

項目の先頭に半角空白記号をひとつ設定しなければならない

エラー例 2) Subject: △Transmit△sample△

項目の末尾に余分な半角／全角空白記号を設定してはならない

(10) 電文規約

電文は、上記の仕様に加えて RFC2822 に従い作成されなければならない。電文規約を満たさない電文を送信した場合、処理結果の保証はしない。

10. 2. 9 上り連絡電文設定例

連合会と上り連絡電文の送信元とで協議の上、上り連絡電文インタフェースにおける独自情報として独自情報名（下図の「SampleMail」）、一意番号（下図の「00000000993333333333」）、パラメータ（下図の「0001」）を定義することにより、連合会で上り連絡電文を受信して独自に処理することができる。

※ 下図のサンプルでは独自情報名「SampleMail」にてパラメータ「0001」を使用するというイメージ。

上り連絡電文イメージ

Subject: Transmit SampleMail
From: K00000000990@hoken.xxx.kokuho
To: info_hanyo@hoken.xxx.kokuho
X-IFArea: 00000000993333333333, 0001

添付ファイル:xxx.doc

本文:事業所宛事務連絡を参考資料として送付します。よろしくお願ひします。

このページは白紙です

付録

付録. a 伝送システムのエラーコード一覧

コード体系

X 1	X 2	X 3	X 4	X 5	X 6
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- X 1 : 業務 I D ----- N : 伝送システムでのチェックエラー
 X 2 : カテゴリ ----- 1 : メールヘッダのエラー
 2 : メール本文のエラー
 3 : 添付ファイルのエラー
 4 : D B参照した結果でのエラー
 9 : その他のエラー

X 3 - X 4 : カテゴリ大分類

X 5 - X 6 : カテゴリ小分類

エラーコード (6桁)	エラー内容
N10101	Subject 文に記載した電文識別 ID がデータ送信電文”DataSend”またはデータ取り消し電文”DataDelete”ではありません。
N10102	Subject 文の項目の数が誤っています。
N10201	X-IFArea 文に記載した項目に全角文字が設定されています。
N10202	X-IFArea 文の項目の数が誤っています。
N10203	データ送信電文の時、X-IFArea 文の整理番号が数字ではありません。
N10204	データ取り消し電文の時、X-IFArea 文の伝送・整理番号に数字以外が設定されています。
N10205	データ取り消し電文の時、X-IFArea 文の取消・整理番号に数字以外が設定されています。
N10206	データ送信電文の時、X-IFArea 文の整理番号の桁数が規定桁 (20桁) と一致しません。
N10207	データ取り消し電文の時、X-IFArea 文の伝送・整理番号の桁数が規定桁 (20桁) と一致しません。
N10208	データ取り消し電文の時、X-IFArea 文の取消・整理番号の桁数が規定桁 (20桁) と一致しません。
N10209	データ送信電文の時、X-IFArea 文のデータファイル数に数字以外が設定されています。
N10210	データ送信電文の時、X-IFArea 文のデータファイル数の桁数が規定桁 (5桁) と一致しません。
N10211	データ送信電文の時、X-IFArea 文のデータファイル数に有効な値が設定されていません。

N10212	データ取り消し電文で伝送・整理番号の事業者/保険者と取消整理番号の事業者/保険者は同じでなければいけません。
N10301	From 文が記載されていません。
N10401	Date 文が記載されていません。
N10402	Date 文の項目の数が誤っています。
N10403	Date 文の形式が正しくありません。
N30101	データ送信電文に添付ファイルが設定されていません。
N30102	データ送信電文の添付ファイル名の拡張子 (“CSV”または“LZH”) が誤っています。
N30103	データ送信電文の添付ファイル拡張子が“CSV”の時、拡張子を除く添付ファイル名の桁数が規定桁（半角 8 桁）を超えています。
N30104	データ送信電文の添付ファイル拡張子が“LZH”の時、拡張子を除く添付ファイル名の桁数が規定桁（半角 2 0 桁）を超えています。
N30105	データ送信電文の時、0 バイトの添付ファイルはエラーです。
N30106	データ送信電文の時、添付ファイル数が X-IFArea のデータファイル数の値を超えています。
N30201	データ取り消し電文に添付ファイルが設定されています。
N10901	メールのエンコードは Base 6 4 を設定して下さい。
N30107	データ送信電文の時、同じ添付ファイル名が存在します。
N30108	添付ファイル名に使用できない文字が存在します。
N40101	整理番号の保険者/事業所が台帳データベースに登録されていません。
N30301	圧縮された添付ファイルを解凍できません。
N31107	解凍後に同じ名前の添付ファイルが存在します。
N31102	解凍後の添付ファイル名の拡張子は全て“CSV”となります。拡張子が誤っています。
N31103	解凍後、拡張子を除く添付ファイル名の桁数が規定桁（半角 8 桁）を超えています。
N31105	解凍後の添付ファイル・サイズが 0 バイトはエラーとする。
N31106	解凍後の添付ファイルの合計と X-IFArea のデータファイル数が違います。
N40102	既に同一のデータ送信電文の整理番号が DB ファイルに登録されています。（整理番号はユニークな番号であること）
N40103	データ取り消し電文の取消・整理番号に該当するデータ送信情報が DB ファイルに登録されていません。（削除する該当のデータ送信電文がない）
N99999	その他の伝送チェックのエラーがあります。

G10601	コントロールレコードの福祉事務所特定番号の桁数に誤りがあります。
G10602	コントロールレコードの福祉事務所特定番号に全角文字が使用されています。
G10603	コントロールレコードの福祉事務所特定番号が数字ではありません。
G10604	コントロールレコードの福祉事務所特定番号に誤りがあります。
G10610	コントロールレコードの福祉事務所特定番号は存在しません。
G10701	コントロールレコードの保険者番号の桁数に誤りがあります。
G10702	コントロールレコードの保険者番号に全角文字が使用されています。
G10703	コントロールレコードの保険者番号が数字ではありません。
G10704	コントロールレコードの保険者番号に誤りがあります。
G10710	コントロールレコードの保険者番号は存在しません。
G10801	コントロールレコードの事業所番号の桁数に誤りがあります。
G10802	コントロールレコードの事業所番号に全角文字が使用されています。
G10803	コントロールレコードの事業所番号が数字ではありません。
G10804	コントロールレコードの事業所番号に誤りがあります。
G10810	コントロールレコードの事業所番号は存在しません。
G10901	コントロールレコードの都道府県番号の桁数に誤りがあります。
G10902	コントロールレコードの都道府県番号に全角文字が使用されています。
G10903	コントロールレコードの都道府県番号が数字ではありません。
G10904	コントロールレコードの都道府県番号に誤りがあります。
G10911	コントロールレコードの都道府県番号が自都道府県ではありません。
G11001	コントロールレコードの媒体区分の桁数に誤りがあります。
G11002	コントロールレコードの媒体区分に全角文字が使用されています。
G11003	コントロールレコードの媒体区分が数字ではありません。
G11004	コントロールレコードの媒体区分に誤りがあります。
G11101	コントロールレコードの処理対象年月の桁数に誤りがあります。
G11102	コントロールレコードの処理対象年月に全角文字が使用されています。
G11103	コントロールレコードの処理対象年月が数字ではありません。
G11104	コントロールレコードの処理対象年月に誤りがあります。(拡張機能の場合にチェックし返却)
G11201	コントロールレコードのファイル管理番号の桁数に誤りがあります。
G11202	コントロールレコードのファイル管理番号に全角文字が使用されています。
G11203	コントロールレコードのファイル管理番号が数字ではありません。
G11204	コントロールレコードのファイル管理番号に誤りがあります。
G15021	コントロールレコードの項目数に誤りがあります。
G20201	データレコードのレコード番号の桁数に誤りがあります。
G20202	データレコードのレコード番号に全角文字が使用されています。
G20203	データレコードのレコード番号が数字ではありません。
G20204	データレコードのレコード番号に誤りがあります。
G20205	データレコードのレコード番号が通番ではありません。
G30201	エンドレコードのレコード番号の桁数に誤りがあります。
G30202	エンドレコードのレコード番号に全角文字が使用されています。

G30203	エンドレコードのレコード番号が数字ではありません。
G30204	エンドレコードのレコード番号に誤りがあります。
G30205	エンドレコードのレコード番号が通番ではありません。
G90201	事業者番号／保険者番号が指定されていません。
G90202	事業者番号／保険者番号の指定方法に誤りがあります。
G90203	レコード件数に誤りがあります。
G90204	エンドレコードが存在しません。
G90901	レコード内に制御文字が設定されています。
G99999	その他の外部接続チェックのエラーがあります。

付録. c 拡張情報の追加における受付点検電文への添付ファイル（拡張情報ファイル）の返却例

```
<?xml version=" 1.0" encoding=" Shift_JIS" ?>
<伝送情報>
  <受付>
    <受付情報>
      <受付データファイル名>TOKY0001.csv</受付データファイル名>
      <受付交換情報識別番号>711</受付交換情報識別番号>
      <全レコード件数>100</全レコード件数>
      <明細件数>10</明細件数>
    </受付情報>
  </受付>
  <エラー>
    <エラー情報>
      <エラーデータファイル名>TOKY001.csv</エラーデータファイル名>
      <交換情報識別番号>711</交換情報識別番号>
      <事業所番号>3261390003</事業所番号>
      <証記載保険者番号>400186</証記載保険者番号>
      <被保険者番号> 0000000186</被保険者番号>
      <サービス提供年月>200206</サービス提供年月>
      <サービス種類>14</サービス種類>
      <項目名>事業所番号</項目名>
      <項目値>41</項目値>
      <エラーコード>DE</エラーコード>
      <エラー内容>一次:自県内のサービス事業所からの請求ではありません</エラー内容>
    </エラー情報>
  </エラー>
</伝送情報>
```

拡張情報ファイルの返却項目と内容

受付情報	
タグ名	項目内容
受付データファイル名	データファイル名を設定
受付交換情報識別番号	交換情報識別番号を設定
全レコード件数	レコード件数を設定
明細件数	明細件数を設定 請求書、給付管理票、再審査申立書以外の場合 は’ - ‘を設定

エラー情報	
タグ名	項目内容
エラーデータファイル名	データファイル名を設定
交換情報識別番号	交換情報識別番号を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
事業所番号	事業所番号を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
証記載保険者番号	証記載保険者番号を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
被保険者番号	被保険者番号を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
サービス提供年月	サービス提供年月を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
サービス種類	サービス種類を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
項目名	エラー項目名を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
項目値	エラー項目値を設定、項目値が識別できない場合は’ - ‘を設定
エラー内容	日本語で審査エラー内容を設定

付録. d 拡張情報の追加における受付点検電文への添付ファイル（拡張情報ファイル）の
データ定義例

データ定義は DTD により定義されている。

```
<?xml version=" 1.0" encoding=" Shift_JIS" ?>
<!ELEMENT  伝送情報(受付,エラー?)>
  <!ELEMENT  受付(受付情報)>
    <!ELEMENT  受付情報(受付データファイル名+, 受付交換情報識別番号+, 全レコード件数
      +, 明細件数*)>
      <!ELEMENT  受付データファイル名 (#PCDATA)>
      <!ELEMENT  受付交換情報識別番号 (#PCDATA)>
      <!ELEMENT  全レコード件数 (#PCDATA)>
      <!ELEMENT  明細件数 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT  エラー(エラー情報?)>
      <!ELEMENT  エラー情報(エラーデータファイル名*, 交換情報識別番号*, 事業所
        番号*, 証記載保険者番号*, 被保険者番号*, サービス提供年月*, サービス種
        類*, 項目名*, 項目値*, エラーコード*, エラー内容*)>
        <!ELEMENT  エラーデータファイル名 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  交換情報識別番号 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  事業所番号 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  証記載保険者番号 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  被保険者番号 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  サービス提供年月 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  サービス種類 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  項目名 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  項目値 (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  エラーコード (#PCDATA)>
        <!ELEMENT  エラー内容 (#PCDATA)>
```

保護用紙